

ルツ記

第一章 土師の世ををさむる時にあたりて國に饑饉たありければ一箇の人その妻と二人の男子をひきつれてベテレヘムユダを去りモアブの地にゆきて寄寓るニその人の名はエリメレクその妻の名はナオミその二人の男子の名はマロンおよびキリオンといふベテレヘムユダのエフラテ人なり彼等モアブの地にいたりて其處にをりしが三ナオミの夫エリメレク死てナオミとその二人の男子のこさる四彼等おのおのモアブの婦人を妻にめとるその一人の名はオルパといひ一人の名はルツといふ彼處にすむこと十年許にして五マロンとキリオン二人もまた死りスナオミは二人の男子と夫に後れしが六モアブの地にて彼エホバその民を眷みて食物を之にたまふと聞ければその媳とともに起ちてモアブの地より歸らんとし七その在ところを出たりその二人の媳これとともにあり彼等ユダの地にかへらんと途にすむハ爰にナオミその二人の媳にいひけるは汝らはゆきておのおの母の家にかけれ汝らがかの死たる者と我とを善く待ひしごとくにねがはくはエホバまたなんぢらを善くあつかひたまへ九ねがはくはエホバなんぢらをして各々その夫の家に安身處をえせしめたまへと乃ちかれらに接吻しければ彼等聲をあげて哭き〇之にいひけるは我ら汝とともに汝の民にかへらんと二ナオミいひけるは女子よ返れ汝らなんぞ我と共にゆ

くべけんや 汝らの夫となるべき子猶わが胎にあらんや二女子よかへりゆけ 我は老たれば夫をもつをえざるなり 假設われの望ありといふとも今夜夫を有つとも而してまた子を生むとも三汝等これがために其子の生長までまちをるべけんや之がために夫をもたずしてひきこもりをるべけんや 女子よ然すべきにあらず 我はエホバの手のぞみてわれを攻しことを汝らのために痛くつれふるなり四彼等また聲をあげて哭く而してオルパはその姑に接吻せしがルツは之を離れず五是によりてナオミまたいひけるは視よ汝の妯娌はその民とその神にかへり行く 汝も妯娌にしたがひてかへるべし六ルツいひけるは汝を棄て汝をはなれて歸ることを我に催すなかれ我は汝のゆくところに往き汝の宿るところにやどらん 汝の民はわが民汝の神はわが神なり七 汝の死るところに我は死て其處に葬らるべし 若死別にあらずして我なんぢとわかればエホバわれにかなし又かさねてかくなしたまへ八彼媳が固く心をさだめて己とともに來らんとするを見しかば之に言ふことを止たり九かくて彼等二人ゆきて終にベテレヘムにいたりしがベテレヘムにいたれる時 邑こそりて之がためにさわぎたち婦女等是我はナオミなるやといふ〇ナオミかれらにいひけるは我をナオミ(樂し)と呼なかれマラ(苦し)とよぶべし 全能者痛く我を苦め給ひたればなり二 我盈足て出たるにエホバ我をして空くなりて歸らしめたまふ 三エホバ我を攻め全能者われをなやましたまふに

汝等なんぞ我をナオミと呼や三斯ナオミそのモアブの地より
 歸れる媳モアブの女ルツとともに歸り來れり 即ち彼ら大麥刈
 の初にベテレヘムにいたる

第二章 ナオミにその夫の知己あり 即ちエリメレクの族にし
 て大なる力の人なりその名をボアズといふ茲にモアブの女
 ルツ、ナオミにいひけるは請ふわれをして田にゆかしめよ我
 何人の目のまへに恩をうるることあらばその人の後にしたがひ
 て穂を拾はんとナオミ彼に女子よ往べしといひければ三乃ち
 行き遂に至りて刈者の後にしたがひ田にて穂を拾ふ 彼意はず
 もエリメレクの族なるボアズの田の中にいたれり 四時にボア
 ズ、ベテレヘムより來りその刈者等刈者等に言ふねがはくはエ
 ホバ汝等とともに在せと彼等すなはち答てねがはくはエホバ
 汝を祝たまへといふ五ボアズその刈者を督る僕にいひけるは此
 は誰の女なるや六刈者を督る人こたへて言ふ是はモアブの女に
 してモアブの地よりナオミとともに還りし者なるが七いふ請ふ
 我をして刈者の後にしたがひて禾束の間に穂をひろひあつめし
 めよと而して來りて朝より今にいたるまで此にあり 其家にや
 すみし間は暫時のみ八ボアズ、ルツにいひけるは女子よ聽け他
 の田に穂をひろひにゆくなかれ 又此よりいづるなかれわが婢
 等に離すして此にをるべし九人々の刈ところの田に目をとめて
 その後にしたがひゆけ 我少者等に汝にさはるなかれと命ぜし
 にあらずや 汝渴く時は器の所にゆきて少者の汲るを飲めと一〇

彼すなはち伏て地に拜し之にいひけるは我如何して汝の目の前
 に恩恵を得たるかなんぢ異邦人なる我を顧みると一ボアズこ
 たへて彼にいひけるは汝が夫の死たるより已來 姑に盡したる
 事汝がその父母および生れたる國を離れて見ず識ずの民に來
 りし事皆われに聞えたり二ねがはくはエホバ汝の行爲に報い
 たまへねがはくはイスラエルの神エホバ 即ち汝がその翼の下
 に身を寄んとて來れる者汝に十分の報施をたまはんことを三
 彼にいひけるは主よ我をして汝の目の前に恩をえせしめたまへ
 我は汝の仕女の一人にも及ざるに汝かく我を慰め斯仕女に懇切
 に語りたまふ四ボアズかれにいひけるは食事の時は此にきた
 りてこのパンを食ひ且汝の食物をこの醋に濡せよと彼すなは
 ち刈者の傍に坐しければボアズ烘麥をかれに與ふ彼くらひて
 飽き其餘を懷む五かくて彼また穂をひろはんとて起あがりけ
 ればボアズその少者に命じていふ彼をして禾束の間にても穂
 をひろはしめよかれを羞しむるなかれ六且手の穂を故に彼が
 ために抽落しおきて彼に拾はしめよ叱るなかれ七彼かく薄暮
 まで田に穂をひろひてその拾ひし者を撲しに大麥一斗許あり
 き八彼すなはち之を携へて邑にいり姑にその拾ひし者を見せ
 且その飽たる後に懷めおきたる者を取り出して之にあたふ九姑
 かれにいひけるは汝今日何處にて穂をひろひしや 何の處にて
 工作しや 願くは汝を眷顧たる者に福祉あれ 彼すなはち姑にそ
 の誰の所に工作しかを告ていふ 今日われに工作をなさしめた

る人の名はボアズといふ。ナオミ娘にいひけるは願はエホバの恩かれに至れ彼は生る者と死る者とを棄ずして恩をほどこす。ナオミまた彼にいひけるは其人は我等に縁ある者にして我等の贖業者の一人なり。モアブの女ルツにいひけるは彼また我にかたりて汝わが穫刈の盡く終るまでわが少者の傍をはなるるなかれといへりと。三ナオミその媳ルツにいひけるは女子よ汝かれの婢等とともに出るは善し然れば他の田にて人に見らるることを免かれん。是によりて彼ボアズの婢等の傍を離れずして穂をひろひ大麥刈と小麥刈の終にまでおよぶ。彼その姑とともにをる。

第三章 爰に姑ナオミ彼にいひけるは女子よ我汝の安身所を求めて汝を幸ならしむべきにあらずや。夫汝が偕にありし婢等を有る彼ボアズは我等の知己なるにあらずや。視よ彼は今夜禾場にて大麥を簸る。然ば汝の身を洗て膏をぬり衣服をまとひて禾場に下り汝をその人にしらせずしてその食飲を終るを待て。而て彼が臥す時に汝その臥す所を見とめおき入てその脚を掀開りて其處に臥せよ。彼なんぢの爲べきことを汝につげんと。五ルツ 姑にいひけるは汝が我に言ところは我皆なすべしと。六すなはち禾場に下り凡てその姑の命せしごとくなせり。七 僮ボアズは食飲をなしてその心をたのしませ往て麥を積る所の傍に臥す。是に於て彼潜にゆきその足を掀開りて其處に臥す。八 夜半におよびて其人畏懼をおこし起かへりて見るに一人の婦その足の方に臥

ゐたれば。九 汝は誰なるやといふに婦こたへて我は汝の婢ルツなり。汝の裾をもて婢を覆ひたまへ。汝は贖業者なればなり。一〇 ボアズにいひけるは女子よねがはくはエホバの恩典なんぢにいたれ。汝の後の誠實は前よりも勝る。其は汝貧きと富とを論ず少き人に従ふことをせざればなり。二 されば女子よ懼るなかれ。汝が言ふところの事は皆われ汝のためになすべし。其はわが邑の人皆なんぢの賢き女なるをしればなり。三 我はまことに贖業者なりと雖も我よりも近き贖業者あり。三 今夜は此に住宿れ。朝におよびて彼もし汝のために贖ふならば善し。彼に贖はしめよ。然ど彼もし汝のために贖ふことを好まずばエホバは活く我汝のために贖はん。朝まで此に臥せよ。四 ルツ朝までその足の方に臥て誰彼の辨がたき頃に起あがるボアズ。此女の禾場に來りしことを人にしらしむべからずといへり。五 而していひけるは汝の著る袷衣を將きたりて其を開げよと。即ち開げければ大麥六升を量りて之に負せたり。斯して彼邑にいたりぬ。六 爰にルツその姑の許に至るに姑いふ女子よ如何ありしやと。彼すなはち其人の己になしたる事をことごとく之につげて。七 而していひけるは彼空手にて汝の姑の許に往くなかれといひて。此六升の大麥を我にあたへたり。八 姑いひけるは女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ。彼人今日その事を爲終すば安んぜざるべければなり。

第四章 爰にボアズ門の所にのぼり往て其處に坐しけるに前に

